

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

I～IIIの読解問題の過去4年の総語数は「2,110→2,248→2,112→2,350」で、増減を繰り返している。

## 出題の特徴

大問数・設問数・設問構成ともに、17年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式がつづいている。

## &lt;大問分析&gt;

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	(A)「ビッグ・クエスチョン」(278 words) (B)「代替医療ホメオパシー」(273 words)	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈などにも注意して解いていくとよい。本文や選択肢には難単語も含まれるが、それ以外の単語がわかれば対応できる。	標準
II	読解総合	(A)「見ると知るの関係性」(176 words) (B)「smartの使用頻度」(253 words) (C)「ダニング・クルーガー効果」(498 words)	内容一致問題、内容不一致問題 全体的に、英文内容はわかりやすく、該当箇所も見つけやすい。パラグラフのポイントを整理しながら読み進めていく力が問われており、19は文章全体のタイトルを選ばせる設問になっている。	標準
III	読解総合	「宗教の歴史に重大な意味を与える数々の用語」(620 words)	空所への文補充問題 代名詞などの指示語に加えて、時代背景や宗教史にまつわる用語なども空所を埋めるヒントになる。	標準
IV	その他	会話文 天気予報でのキャスターと気象予報士のユーモラスなやりとり	空所補充問題 7つの空所に対して選択肢は13と多いが、空所に入れるべき品詞や前後の文脈に着目することで、検討すべき選択肢は容易に絞れる。	標準
V	英作文	「世間に浸透した考えがなかなか撤回されない事情」(252 words)	2つのパラグラフからなる文章で、話の展開はわかりやすく、要約の材料となるキーセンテンスも(例年にくらべて)見つけやすい。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

長文読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要になる。設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。一文要約の問題では、英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。